

第 5 回 大鹿村リニア連絡協議会を開催

リニア工事による影響調査の情報や住民意見などを共有し、リニア工事全般に関わる事項について連絡調整を行うことを目的に、J R 東海、施工業者、中部電力、長野県、大鹿村及び住民による「大鹿村リニア連絡協議会」が交流センターに於いて、関係者 57 名が出席し下記のとおり開催されました。

■第 5 回 リニア連絡協議会 (平成 29 年 12 月 21 日 午後 7 時 00 分～9 時 05 分 開催)

○リニア工事及び関連工事について

冒頭、J R 東海及び施工業者より県道の崩落による通行止めについて謝罪があり、今後の復旧計画について説明がありました。

■(主)松川インター大鹿線への土砂流入の原因及び応急復旧計画について

1. 概況

- 平成 29 年 12 月 15 日 (金) 午前 3 時 25 分頃、(主)松川インター大鹿線道路トンネル新設 (四徳工区) 工事現場付近において、土砂流入が発生しました。

2. 施工会社

- (主) 松川インター大鹿線道路トンネル新設 (四徳工区) 工事共同企業体
(代表構成員：戸田建設株式会社、構成員：吉川建設株式会社)

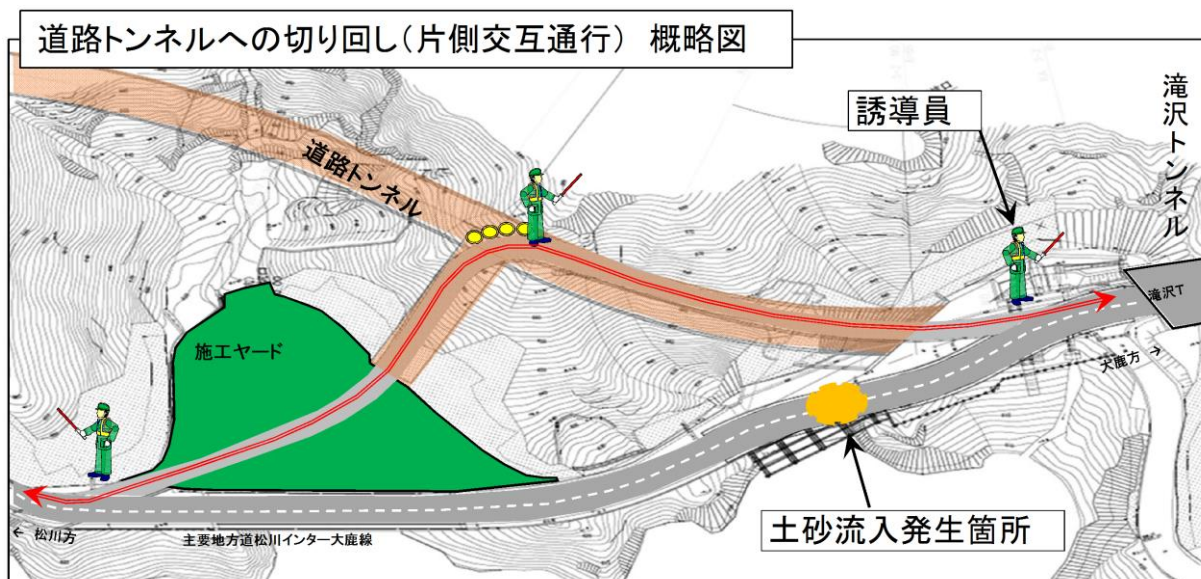
3. 原因

- 現在も詳細は調査中ですが、J R 東海が発注し工事共同企業体が施工している四徳渡トンネル工事の発破等による振動が繰り返し作用したことにより、トンネル直上の地山が緩み、土砂流入に至ったものと考えています。

4. 応急復旧計画 (以下の 3 段階で計画を進めていきます。)

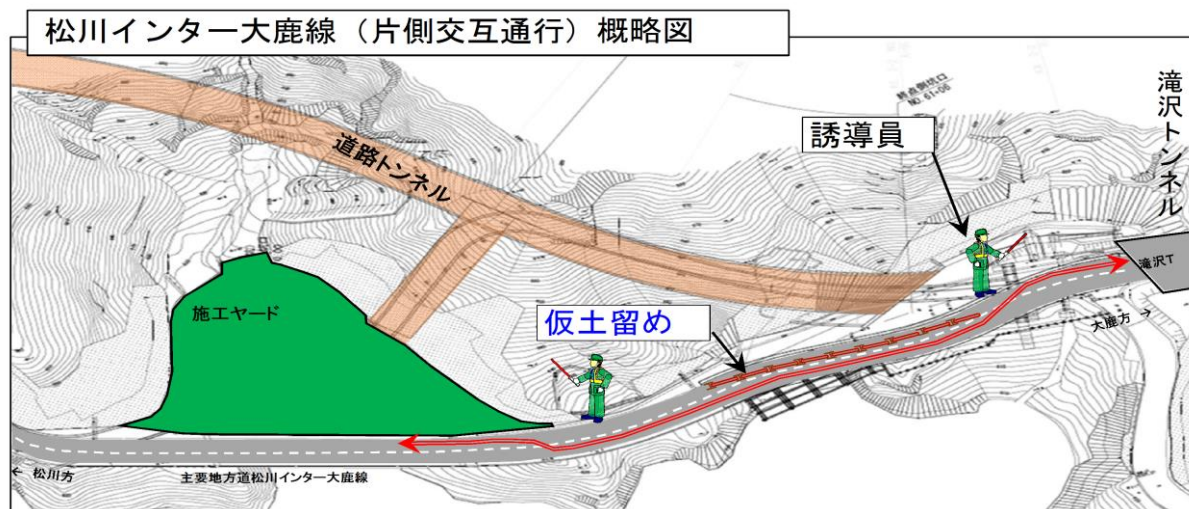
(1) 道路トンネルへの切り回し (片側交互通行) ※完了

- 道路トンネルの掘削を進めて貫通させ、トンネル内の路盤・舗装作業を実施し、12 月 29 日正午に道路トンネルへの切り回し (片側交互通行) により通行止め解除となりました。



(2) (主) 松川インター大鹿線への切り替え ※1月下旬～2月上旬を目途に切り替え予定

- ・道路トンネルへの切り回し期間中に（主）松川インター大鹿線道路への流入土砂の撤去、法面への追加安全対策、仮土留めの設置等を進めていきます。その後、県道を一部開通（片側交互通行）させ、本復旧に向けた作業を進めていきます。



(3) (主) 松川インター大鹿線 本復旧工事

- ・本復旧工事中は県道の片側交互通行を継続します。本復旧工事の詳細は長野県と調整中です。

※今後、復旧工事のスケジュール等詳細がわかり次第、村ホームページ等でお知らせします。

○委員意見と回答

意見 本復旧は年度内に終わるのか。さくら祭りや観光シーズンを迎える前に終わらせてほしい。

JR 回答 長野県とこれから協議します。工法にもよりますが今の意見を参考として考えたい。

意見 崩れやすい場所であることを認識していたか。工期を気にして急いでいたのではないか。

JR 回答 認識しており調査し、薬液注入によりトンネル上部を固めていた。慌てていたわけではない。

① (主) 松川インター大鹿線改良工事について

【(仮称) 西下トンネル: L=878m】

- ・10月2日にトンネルが貫通し、現在は大鹿方の坑門工や覆工の施工を進めています。
- ・引き続き、舗装、電気工事等の施工を進めていきます。

■小渋線の工事用車両通行台数の実績（往復）

	A 区間 (渡場～半の沢)	B 区間 (半の沢～西下トンネル)	C 区間 (西下トンネル～滝沢トンネル)	D 区間 (滝沢トンネル～大鹿方面)
西下工区	49.4 台/日 (2017. 10)	207.3 台/日 (2017. 4)	12.8 台/日 (2017. 7)	
四徳工区	54.1 台/日 (2017. 11)	275.6 台/日 (2017. 9)		19.5 台/日 (2017. 10)
南アトンネル	22.8 台/日 (2017. 11)			

※工事用車両台数は、いずれも「月別日平均（月延総台数を1月当りの工事稼働日数で割り戻した数値）の最大値」です。
道路トンネル工事のピークを過ぎたため、今後は工事用車両台数は大幅に減少する見込みです。

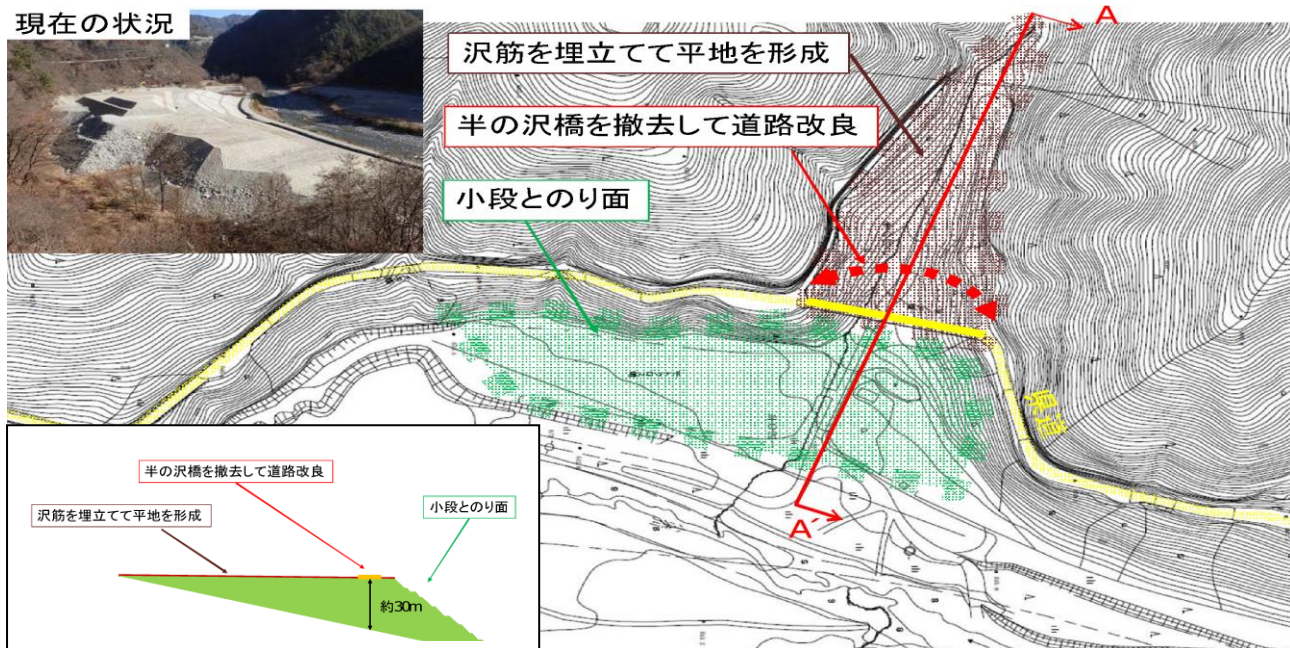
【現道拡幅 区間5（西下トンネル下）】

※別紙（村民の皆様へ 県道松川インター大鹿線道路拡幅工事のお知らせ）をご覧ください。

■半の沢の埋立てによる道路改良（案）イメージ（平面・断面）が示されました。

- ・今後、関係箇所では協議の上詳細な設計を進めます。

現在の状況



意見 沢筋を埋め立てるため、排水について考慮願う。

JR 回答 防災対策、排水対策等の設計内容は長野県に審査していただきます。

② 赤石岳公園線改良工事について

- ・区間 4（赤石荘手前）の施工が完了。
 - ・区間 5（大鹿発電鉄管路先）、区間 6（日向休下）、区間 7（林道分岐手前）を施工中。
 - ・その他の改良計画区間は、年度内に地元説明を行い、平成 30 年度に工事着手する計画です。
- ※工事資材としてトンネル発生土を有効活用する予定です。（例：福德寺前迂回路工事等）

③ 南アルプストンネル工事について

【小渋川非常口】

- ・掘進延長：約 350m
- ・トンネル掘進の進捗により、騒音値は減少傾向のため集落内での騒音振動測定は終了。

【除山非常口】

- ・11月1日 機械掘削再開（昼間作業）
- ・12月18日 〃（夜間作業）
- ・12月22日 発破掘削開始（昼間作業）
- ・1月初旬 夜間発破掘削開始（※日程が決まりましたら改めてお知らせいたします。）



除山非常口ヤード

④ その他

■旧荒川荘 発生土置き場計画について

- ・旧荒川荘を取り壊して本置き場とし、県道赤石岳公園線を拡幅する計画。置き場容量は約 3 万 m³。
- 今後、環境保全措置・管理計画等を取りまとめ、長野県・大鹿村に報告するほか、JR 東海ホームページで公表します。

■大西グラウンド整備事業について（リニア発生土を活用した整備計画の今後の予定）

- ・1月以降 地質調査、設計協議
- ・6月以降 工事着手（支障物移転、造成、発生土搬入）

トンネル発生土の再利用計画について

- ・トンネル発生土を骨材に再利用することにより、発生土運搬車両台数を低減することを目的に、大鹿砕石(株)の協力を得て検討を行ないます。
- ・トンネル発生土を骨材として再利用できるか品質等の確認のため、小渋川非常口からの発生土（緑色岩主体）を試料として、品質や生産量を確認します。
- ・1月以降、小渋川非常口横の仮置き場～大鹿砕石(株)において試料運搬を行ないます。運搬ダンプは大鹿砕石(株)ダンプとし、資材運搬後の戻りのダンプを活用することで工事用車両台数が増加しないようにします。

■伊那山地トンネル（青木川工区）事務所予定地について

- ・青木川非常口（作業ヤード）南側の東樽渡橋横の農地を転用し、工事事務所・宿舎を設置する予定です。

⑤送電線計画について

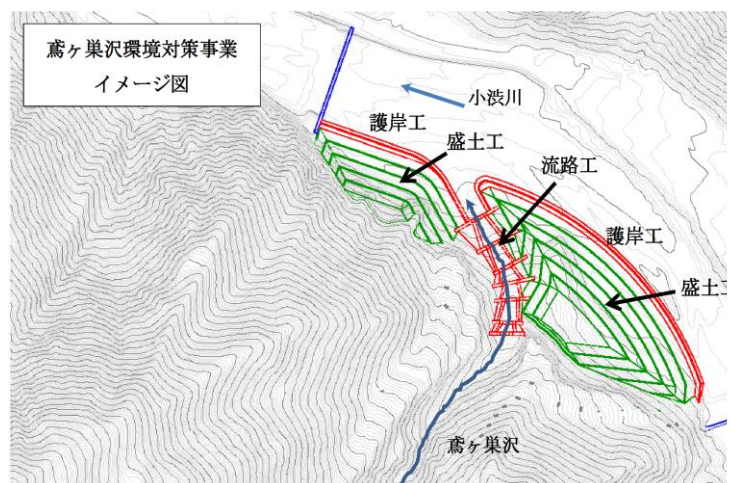
■中部電力から進捗状況と今後の予定について

- ・中心測量、縦断測量、地質調査が終了。現在、仮設測量を実施中。
- ・地質調査結果に基づき架空送電線（村内鉄塔数：9基）で設計を行ないます。
- ・用地測量は現地調査が終了し、現在境界立会い等を実施中。
- ・自主環境調査は現地調査が終了。今後は有識者、行政の話を聞きながら取りまとめを行ない、平成30年度に調査結果を報告する予定。
- ・その後、工事説明を経て平成31年秋頃に工事着手予定。

○その他

■鳶ヶ巣沢環境対策事業の概要について（大鹿村より）

- ・鳶ヶ巣沢の環境が未整備であり、村事業として鳶ヶ巣沢最下部に盛土を行ない安定地形とすることにより、鳶ヶ巣沢及び小渋川周辺の景観と環境を保全します。
- ・鳶ヶ巣沢最下部に流路工を整備し、小渋川への土砂の流出を防止します。
- ・小渋川に護岸工を整備し、鳶ヶ巣沢環境対策施設を保護します。
- ・本事業を推進するためリニア発生土を有効利用し、村内外へ通行する発生土運搬車両の減少により、生活・環境への影響を低減します。



※今後、村は国・県・JR東海と協議を進め、地元上蔵自治会やリニア連絡協議会で連絡調整をおこない、その結果をお知らせします

○次回（第6回）開催日程等について

- ・次回開催時期を平成30年3月26日の週とし閉会しました。